

第 1 回東大和市公共施設再配置計画策定懇談会 会議要録

開催日時	令和 8 年 2 月 1 8 日（水） 午前 1 0 時から正午まで		
開催場所	東大和市立中央公民館ホール		
出席者	<p>○東大和市公共施設再配置計画策定懇談会委員 讃岐 亮委員（座長）、石坂真奈美委員、並木史浩委員、木内健司委員、 飯塚庫健委員、岡田亜希子委員、樋口健次委員、本田未奈委員、島津徳彦委員、 池田陽子委員、内野 恵委員</p> <p>○東大和市公共施設再配置計画策定懇談会委員（オンライン参加者） 湯浅かさね委員（副座長）</p> <p>○事務局：武越政策経営部長、大野公共施設再編課長、犬塚主事 田口教育部長、加藤教育総務課長、長瀬学校施設更新等担当課長</p> <p>○受託者：株式会社ファインコラポレート研究所（土肥・オンライン参加）</p>		
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 座長・副座長の選任 3 議題 <ol style="list-style-type: none"> （1）東大和市公共施設再配置計画（素案）の概要について （2）その他 4 閉会 		
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次第 ・ 東大和市公共施設再配置計画（素案） ・ 第 1 回東大和市公共施設再配置策定懇談会 説明資料 		
公開・非公開の別	公開	傍聴者	9 人

議事要旨

【開会】

○武越政策経営部長

ただいまから、第1回東大和市公共施設再配置策定懇談会を開催いたします。
委員の皆様のご紹介をいたします。委員の皆様は一言お願いします。

(各委員一言あいさつ)

○武越政策経営部長

委員の皆様ありがとうございました。それでは事務局側の職員を紹介させていただきます。
私、政策経営部長の武越と申します。どうぞよろしくお願いします。
政策経営部公共施設再編課長の犬野です。
教育委員会、教育部長の田口です。
教育総務課長の加藤です。
学校施設更新等担当課長の長瀬です。

また、再配置計画の策定支援業務を委託しております株式会社ファインコラボレート研究所の土肥がリモートで参加しております。

○武越政策経営部長

続きまして、次第の2、座長、副座長の選任でございます。

東大和市公共施設再設置計画策定懇談会設置要綱第3条第2項の規定により、座長は委員の互選により選任することとなっております。座長の選任につきまして、立候補や推薦などご意見がございましたらお願いいたします。

○委員

座長につきましては、立地適正化計画や公共施設マネジメントなど広い見識をお持ちの讃岐委員にお願いしたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

○武越政策経営部長

ただいま讃岐委員を推薦する提案がございました。よろしいでしょうか。

(一同拍手)

○武越政策経営部長

それでは、讃岐委員に座長をお願いしたいと思います。
ここからの司会進行は座長をお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

○座長

座長に選任いただきました。よろしくお願いいたします。

先ほど委員のあいさつの中で「楽しい計画」という言葉がありましたが、それが凄く大事だと私自身思っていて、皆さんでワクワクできる、ワクワクが伝わるような議論ができると良いと考えており

ます。それでは、副座長の選任を行いたいと思います。

東大和市公共施設再配置計画策定懇談会設置要綱第3条第2項の規定により、副座長については座長が指名することとなっております。そこで、副座長は建築計画に携わった経験や実務経験もお持ちの湯浅委員にお願いしたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

○委員

はい。ご指名ありがとうございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

○座長

ありがとうございます。では、次第の3「議題」に移りたいと思います。

「議題（1）」東大和市公共施設再配置計画（素案）の概要について、事務局から説明をお願いいたします。

【議題（1） 公共施設再配置計画（素案）について】

資料に基づき、計画策定の背景、3つのコンセプト、財政試算、今後のスケジュール等について説明

【質疑応答】

○座長

本日は、全体の方向性を共有するというこの懇談会第1回目の到達目標に設定したいと思います。素案全体についてご意見を伺いたいと思いますが、議論の方向性を先に整理させてください。本日は時間の限りもありますが、12時まで議論ができると伺っております。素案の方向性の共有について、委員からそれぞれご意見をいただきたいと思ひます。

まずは、今後の予定について改めて振り返りたいと思ひます。この懇談会は全6回の予定になりますが、本日を除き、まとめや振り返りを考えると、素案の検討は3～4回程度だと思ひます。注目すべき学校の再配置や民間活力導入についても、大きな取組になるかと思ひます。また、財政フレームについても議論できれば良いと思ひます。

本日は、素案について、このような方向性で良いかという認識の共有や、一定の合意形成ができるとよいと思ひます。

次回以降の進め方について、事務局から補足していただきたいと思ひます。

○大野公共施設再編課長

策定懇談会は、来年度4月、6月、7月、10月、来年の1月の5回を予定しています。本日は、ご説明した全体の方向性を共有させていただき、可能であれば、学校とその他公共施設の複合化についてもご意見をいただければと思ひます。

次回、4月の懇談会では、学校とその他の公共施設の複合化の検討ということで、30、40年後の将来に向けてどうしていったらよいか、皆様からご意見いただければと思ひます。

6月には、学校とその他の公共施設の複合化の検討のほか、配布した素案資料の別紙3の健康・福祉・子育て支援拠点施設についてもご意見をいただきたいと考えています。

7月には、屋内プールや図書館を核とした複合施設の整備について、民間資金の活用による整備を目指していますので、ご意見をいただければと思ひます。

10月には、全体について、そこまでの議論の結果も踏まえてご意見をいただき、計画案という形で

まとめていきたいと思っています。

また、市民の皆様のご意見を伺える場等を設置し、意見をいただきながら来年1月には再配置計画をまとめていきたいと考えております。

○座長

まとめると、素案資料の別紙1と2に相当する部分が4月、場合によっては6月にも議論をしたいという話であったのと、別紙3について6～7月にかけて議論したい。また、民間活力導入による施設整備の方向性についても7月までに議論を終えて、そこからこの懇談会を振り返る形で10月、それから来年の1月に足りない部分を補足したり議論を掘り下げていく流れかと想像しました。

このことについて、この進め方と、また先進事例の視察などもできると良いと思いますが、こんな進め方の工夫があったらいいのではないかなど、ご意見があれば伺いたいと思います。いかがでしょうか。

○委員

懇談会を進めていく中で、次の回の案内があるとスムーズかと思います。会議で、その場で考えるのは難しいところもあるので、事前に内容等についてご案内いただけるとよいと思います。

○座長

本日、素案がざっくり説明されましたが、これをかみ砕いてきちんと議論をするという用意がまだできていない、私自身もまだまだ用意ができていないなと認識しておりますので、是非今の意見を参考に、「次回の懇談会の前までにきちんと読み込める状況ができるように資料等共有する」もしくは、「次回どういことを議論したいのかというネタを事前に明示する」など、できるといいかと思います。

貴重なご意見ありがとうございました。

○委員

確認ですが、素案についてパブリックコメントを実施していたと思いますが、結果は4月の懇談会で見せていただけるということでしょうか。

○大野公共施設再編課長

1月8日から2月6日にかけてパブリックコメントを実施しました。提出いただいたご意見について、3月末までにご意見に対する市の考え方を整理して公表するという形にさせていただいています。4月の懇談会では、結果をご覧ください。

○座長

ありがとうございます。できるだけ早く共有できるように努めていただけると嬉しいです。

○委員

素案は大きな方向性ということですが、すべての公共施設全体について、どの施設を取り壊すのか、どの施設を統合するのかといったことについて、少し情報があれば良いと思います。

○座長

再配置の方向性を確認するために、素案の別紙1、別紙2について、もう少し説明があるとわかりやすいと思います。第2回で議論する論点探しにもつながるかと思いますので、事務局から少し補足をお願いしたいと思います。もいかがでしょうか。

○武越政策経営部長

学校の再配置とそれに伴う公共施設の統合・集約の話でございます。素案の別紙2をご覧ください。現在小学校10校、中学校5校という配置になっております。そして、ステップ1、ステップ2、ここままで大体10年スパンで考えています。

ステップ1では、第五中学校を第一中学校に統合するというのを考えております。その第五中学校が空いたところで、ステップ2の第七小学校と第九小学校を統合して、旧第五中学校敷地に統合校を設置するという形になっています。このステップ2のタイミングで、統合された七小・九小に周辺の公共施設、集会所、公民館等を学校の中に入れていくというような形で考えております。

その先のステップ3以降は、10年後以降の話になりますが、ステップ3には第三小学校を第五小学校に統合する、統合に合わせて周辺の公共施設を学校の中に入れていく計画になっております。

ステップ4につきましては、第八小学校を二つの学校に分けまして、第十小学校と第二小学校に分割統合し、学区の変更も行います。

ステップ5では、第八小学校の空いた跡地に、第二中学校と第四中学校の統合校を新設して、最終的には小学校7校、中学校3校という形で考えております。

学校統廃合のタイミングで周辺の公共施設の中に入れていくということで、まだ様々精査が必要な部分もありますが、方向性としてはそのような形で考えています。

学校施設と周辺機能の複合化による地域の拠点「みんなの学校」のイメージを表現したのが、別紙1となっております。

また、学校以外のところでは、別紙3で、庁舎の敷地内に健康・福祉・子育て施設の拠点施設を整備するという内容になっております。具体的な想定内容は別紙3をご覧ください。と思います。

また、素案に「民間活力導入による施設整備」とありますが、屋内温水プールと図書館を核とした複合施設については、市だけの財政負担で施設を建てるのは難しい状況ですので、民間企業を誘致する等、民間資金を活用しながら整備をしたい考えであり、場所等については今後検討していく予定となっております。

○座長

「公共施設の再編」というものは、「公共施設マネジメント」という発想に基づいて進められています。お金や施設の老朽化の話が背景にあり、そういう課題を解決するために、学校を利用し、子供たちには「我慢してね」という風に見えるのが残念だなと私自身思っているのですが、それだけではないということがこの別紙1に書いてあります。

財政上あるいは施設の老朽化という課題を克服しないといけないという課題は確かにありますが、最初の事務局のご説明の中でもあった「学び」と「集い」の魅力というものを向上していくことが、東大和市のこれからの公共施設の在り方にすごく大事だというメッセージが込められているということを皆さんと共有したいと思うわけです。

今日は、別紙2の説明でステップ2まで10年くらいを想定していること、ステップ4では学区の変更が行われるといった大きなところから細かなところまで触れていただきました。そうしたスケジ

ユールの細かなことというよりは、この「学び」と「集い」というものを重んじていくということが東大和市の魅力アップに繋がるという方向性を大事にして、公共施設の再配置に取り組んでいきたいという、そのメッセージを皆さんと共有できるといいかなと思います。その認識の土台の上で、2回目以降でより深い議論、例えば課題にはこういうことがあるよねとか、それをどうやって克服していったらいいだろうかだとか、場合によって、「それはちょっと違うのではないかな」などのご意見をいただきたいと思います。

それらが相対的に再配置計画になっていくのではないかと想像しておりますので、今日のご説明いただいたことも含めて、私自身は別紙1がすごく大事だなと思っていて、こういう施設の在り方、再配置を考えるとときの考え方について皆さんと共有する。共有するためにこういう視点が大事なのではないかとか、議論する前に実際に事例を見に行こうなど、そういうご意見を伺いたいなと思っておりました。

事務局から別紙1の補足説明があったことで、議論の展開が見えてきたかなと思います。

○委員

素案に書いてある公共施設が全ての公共施設なのか、というのが聞きたい。もし載っていない施設があるのであれば、それを加えていただきたいなと思います。

○座長

素案の6の(1)②で、その他公共施設と一括りにされていますが、例えば公園のトイレはどうかとか、議論の範囲を教えていただけると嬉しいなと思います。

○大野公共施設再編課長

公園は入っていませんが、施設については庁舎も含めて基本的に市の全ての公共施設を対象に考えています。先ほど第七小学校と第九小学校のお話がありました。2回プロポーザルが不調になりましたが、あのときの基本構想では周辺の集会所、あとは学童保育所を複合するという形でしたが、今回は別紙2で七小と九小はステップ2になっておりますが、資料の1ページ、6の(1)②でその他公共施設、学校を中心として周辺機能をすべて集約し多世代交流等の地域拠点として整備するという形の大きな方針にさせていただいています。先ほどご説明した別紙1の「学び」と「集い」の強化、こちらを実現するために学校の再配置を中心として、周辺の施設を集約することとしておりますので、公民館も含めた集約を考えております。全市的な再配置により、公民館や地区会館、老人福祉館、児童館といった全ての機能をみんなの学校という形で集約し、お子様からご高齢の方まで皆さんがそこに集えたり、学校としての機能のほか、市民の皆さんが使える地域の拠点施設として整備していきたいと考えています。

○委員

公共施設の再配置の対象となる施設が、この素案に全て記載されているのかを知りたいです。これ以外にも何か考えている公共施設があるのか、我々はここに記載されている公共施設の再設置を検討すればよいのかということを知りたいです

○大野公共施設再編課長

全て記載しています。先ほどの6の(3)で、学校プールが老朽化している点、また市民プールも

老朽化している中で、学校プールとしても使用できて、市民の皆さんも使用できる屋内温水プールを整備するとか、市民の皆様の利便性向上等のため、新たに図書館を核とした複合施設を整備するということは、財政的な話ばかりで恐縮ですが、市で新築するのは難しい状況にありますので、民間資金を活用して実現していきたいと考えております。既存施設の再配置、また新たに整備する施設、全部がこの素案の中に入っていると認識いただければと思います。

○座長

私も多少誤解をしていて失礼しました。よく読むとこの6番の再配置素案について書いてある言葉を拾っていくと、小学校、中学校、それから②に公民館、地区会館、老人福祉館、集会所、児童館、学童保育所等とあり、その先の(3)にプールと図書館がありますね。(4)には市民会館や郷土博物館等ともあります。これで一応すべて記載されているのかと思いますが、その確認がしたいという委員からのご指摘だったかと思います。それに絡めて私から一つ確認なのですが、6-(1)②でその他公共施設とある、この集約機能というのは、学校を中心とした再配置を考えると学校に複合化する集約機能として記載があるわけですね。これについては他の施設も候補に入ってくるのか、ここに載っていない他の公共施設というのは候補にはなりえないのか、あるいはここに載ってくるのは本当にすべて学校に複合化されていくのか。そのあたりのニュアンスはいかがでしょうか。

おそらくこれが2回目以降の一つの論点になるのかなとも思うのですが、今の時点でもし何かあれば、情報だけでも結構なので触れていただきたいと思います。

○大野公共施設再編課長

基本的には、ここに記載されている施設が全てになります。集約機能の最後に「等」と書かせていただいています。現状でも一つの建物で「市民センター」という形になっている複合施設がありますが、「ほっと支援センター」などが入っている施設もあります。そのような施設を集約する場合もあるため、「等」と入れさせていただいています。

○座長

その他、進め方や、再配置の素案についてご意見があれば承りたいと思います。

○委員

座長からも、この別紙1が重要だという話がありましたが、学校というのは、物理的に今のスペースを考えると、学校が本来持っているべき教室や、教職員、その他のスペースを考えると、この機能をすべて入れるということが物理的にどんな感じになるのかというイメージが私自身つきません。次回の4月懇談会で議論をするのにイメージが持てないと難しいかなと思うので、ラフスケッチのようなものを用意し、例えば会議室は共用で使用します、など具体的な資料がないと、本当に1か所に入るのかなという気がしました。こうなっていくというイメージできるものがあればいいと思います。昭島市で、小学校だったところに複合施設が建っているという事例を聞いたことがありますので、参考になると思います。

もう一点、人口の減少について、地域によってその減少度合いが違うと思います。学校再配置のステップが5つというのは、それを踏まえて考えられているんだろうと思いますが、地域ごとの推計データなどが教えていただければ、それを見ながらこのステップを考えると納得ができると思います。地域によっては、想定よりも子供が増えて小学校を統合するのは難しいということが、昭島

市の事例でありました。統合した後にマンションが建ち、子供が増えるということもあるので、そういったことがないようにしないといけないと思います。今後 40 年間の子供の数がどう変わるのかという推計があれば、次の会議に出していただくと非常にわかりやすいと思います。

○座長

大きく2つご意見をいただきました。まず1つは、建築学でもよく言われますが、ボリュームスタディというものが大事ではないかというご指摘です。おおよその面積や小学校という敷地においてどのくらいのもが入るのか、模式図とかそういうものがあると良いのではないかとご指摘だと思います。それが4月まで間に合うかわからないところもありますが、できる範囲でご用意いただきたいと思います。昭島市も貴重な事例としてぜひ確認していただきたいと思います。

人口については、地域ごとの推計が可能ならご用意いただきたいのと、地域の都市計画との関連もあるのでそれをどうコントロールして人口を増やしていくのか、地域ごとの東大和市の方針としてそのあたりの資料もあれば良いと思います。

○委員

第七小学校と第九小学校の統合の時に、コロナ前でしたが、周りの集会所や学童保育所も全て入れて一応完成とし、これを作りましょうというところまで行ったのですが、コロナなどで不調となってしまいました。その時の我々が作った第七小学校・第九小学校統合進行は事例としてお示しすることができるのではないかと思います。

○委員

私は学校や地域のことなど、様々なことに関わっています。第七小学校と第九小学校の統合について、根本的な話なのですが、市民から見ると突然なくなるイメージがあります。他の施設についても、10年以上前から行われていたことが急になくなってしまうことがありました。公共施設の再配置において、東大和市の特色をどのように活かすのか教えてほしいです。現状の素案には、あまり魅力が感じられません。もっと魅力ある公共施設の作り方があるのではないかと思います。

東京都で行っているいろんなものを少しずつつかいつまんで作ってるように思えて、もっと東大和市の特色を生かしたものを盛り込んで作ってほしいと考えて参加しました。再配置の検討にあたり東大和の魅力をどこに組み込んだのか教えていただきたいです。

○座長

事務局いかがでしょう。今、とても大切なことですが壮大な質問をいただきました。答えられるかわかりませんが回答をお願いします。

○武越政策経営部長

東大和らしさというのは確かに緑や緑地があるとか、そういうところでさまざまなコンセプトを混ぜることができるかと思いますが、東大和市は全体がコンパクトにまとまっている市なので、その中で動きやすい、移動しやすいというのが一番のメリットだと思っています。それらを生かせる公共施設にしたいと思っています。皆さんが賛同いただけるような形でこの話をまとめていけるように努力したいと考えています。

○座長

公共施設の複合化あるいは多機能化という手法は、今までそれぞれの施設で集ってきた方々の新たな出会いの場だと説明するときがあります。学びと集いの魅力アップと書いてある別紙1において、いくつかの機能が混ざり合うことで、お互いに知れなかった存在を認識して、改善・共有できる強みはあるかと思います。

また、市民と作っていくことなどにより、民間の知恵が魅力を創出する原動力にもなるので、そういった体制や議論の仕組みづくりが必要ではないかと思います。

○委員

予算が足りないからとかということで、第七小・第九小の統廃合について、どのような見立てだったのか、どのようになくなっていく予定だったのかを知りたいです。

○座長

少しだけご紹介いただきたいと思います。詳しいことは2回目の資料等でももし共有できるようであればいいかなと思います。

○委員

七小・九小統合新校建設の検討に参加していました。七小・九小は、いざ建てるという段階で、物価の上昇等により、参加表明はあったものの辞退となりました。その後、もう一度プロポーザルを行いましたが、金額等の関係で辞退となってしまったという状況です。

○座長

全国の公共施設の整備においても、入札を行って不調になったということは様々聞きます。そういうことも見越していかなければいけません。お金がないから何もできないというわけにもいかないの、まずは魅力アップということで協力していただけるとうれしいです。

教育部長から補足があるそうなのでお願いします。

○田口教育部長

七小・九小の関係でございますが、建替えて七小の敷地に新しい学校を作る。そのために九小に仮校舎を建てる計画で、約48億円の予算でプロポーザルを実施しました。1社の応募はありましたが結果的には辞退となり、1回目が不調となりました。2回目は10億円ほど予算の追加を行って同じようにプロポーザルを実施し、2社から応募がありました。しかしながら、最終的には2社とも辞退となり不調となってしまいました。建設業界の人手不足等の背景もあると思いますが、市としても建替えをしないわけではないため、今回の計画でも七小・九小は建替えをすることとし、仮校舎を造らずに五中敷地にもっていくことでコスト削減の可能性も見込んでいます。ところが、財政的の観点だけでなく、総合的に判断して今回の素案の内容となっています。

○座長

過去の取組の教訓等を踏まえて議論が必要だという認識を共有し、計画に反映されるといいのではないかと思います。財政のことにしても議論していけるとよいと思います。

○委員

この計画が1月の市報に出たとき、私の中では大きな衝撃でした。学校を減らすということに対して抵抗感はあると思います。学校を減らすことで、通学時間がそうなるか気になります。私は八小の児童に携わっていますが、八小の中でも場所によっては通学に負担がかかっている場所があります。再編した後の通学時間等は把握されているのでしょうか。

○座長

今までの例から、通学時間等のシミュレーションをすることは物理的には可能なのかなと思います。そのあたりの分析はされる予定なのか、今の時点でシミュレーションしているのでしょうか。

○大野公共施設再編課長

シミュレーションは行っておりませんが、一番遠い距離は把握しています。ただし、その場所に学校に通う児童・生徒がいるということはなく、あくまでも学区域の中で一番遠い人が住む場所という観点で把握しており、市全体では、現在も再配置後も、一番遠い場所で、学校まで約2.5km、約30分程度の距離と認識しています。

○座長

公共施設の配置を考えると2つ考え方があり、学校であれば学校に通っている児童・生徒全員の距離を足し合わせてそれをなるべく小さくしようという考え方と、一番遠い児童・生徒の距離をなるべく縮めてあげようという考え方があります。今の説明ですと、一番遠い児童・生徒の負担をできるだけ抑えようとした配置案ということでした。今後も通学距離等に関する検討が必要となるかもしれないということは共有しておく必要があると思います。

○委員

学びというところなのですが、特別支援学級や通級指導教室について、現状、特別支援学級が小学校だと2校で、そこに通う子どもの負担が大きいと思います。別紙1の「誰一人取り残さない全ての子どもの可能性を引き出す学びの保障」とするならば、どこの学校でも学びが保証されるという期待をしてしまうのですが、ハードだけでなく学びの内容についても考えていく必要があると思います。

○座長

大事な指摘をいただきました。今の視点はきちんと論点にした方が良いでしょうし、現時点でご回答いただければいただきたいですが、私としても誰一人取り残さないと書いてあるので全てを対象とすると思いますので、それを前提に検討したいと思いますがいかがでしょうか。

○田口教育部長

市の教育委員会としても、誰一人取り残さない、全ての子どもたちの教育という形そのものはうたっております。ただ、人の配置、また、施設の問題、様々な内容がそこには関わってくるものだと思っております。特別支援については教育委員会としても様々取り組んでいるところでありますが、全て十分かという点については様々意見があると思います。再配置することで、全て専門の学級がおけるのかとなると難しい面もあるかなと思いますので、様々検討していく必要があると認識しています。また、通学距離等に関しても様々ご意見があることは認識しています。国の基準では小学校は通学が

概ね4 km、中学校は概ね6 kmとなっています。東大和市はコンパクトな市となっていますので、財政的な観点も踏まえながら検討していきたいと考えております。

○座長

先ほど手を挙げていた委員から、順番にご意見をいただき、その後、まだ発言していない方から意見をうかがいたいと思います。

○委員

車椅子利用者や、ハンデのある方をここで切り捨てるようなことをしないでいただきたいというのがあります。東大和市駅が無人駅になって車椅子利用者としては使いにくくなったり、無人のレジも増えてきて、効率化やコスト削減が見られます。今回の「みんなの学校」で既存の建物を使う場合、エレベーター等を全てにつけられるのか、つけられないと複合化する図書館等を車椅子利用者が利用できないということがないように、次回以降バリアフリーの考え方についてもお示ししてほしいと思います。

また、セキュリティについても、「みんなの学校」になるといろいろな人が入ってきやすくなると思います。そこでセキュリティの問題が出てくると思いますので、その点についても次回以降お示ししていただけるとありがたいです。

○委員

先ほど七小・九小のプロポーザルが不調となった話がありましたが、三小・五小や七小・九小の検討内容がまとめて見られるようにするのは可能でしょうか。

○大野公共施設再編課長

三小・五小は、現時点で具体的に動いていないのですが、七小・九小は、新校舎の建設基本構想を策定していますので、ご覧いただけます。市のホームページに載っていますので、そちらでご覧いただくことが可能です。

○委員

「みんなの学校」の根幹にあるのは、施設もそうですが、子どもの安全性が確保されていることが前提で交流が行われることと、子どもたちは地域の目の中で育っていくことが大事ではないかと思います。先進事例として他の学校を視察に行き、実際に現場の意見を聞くことも良いのではないかと思います。

○委員

回答は求めませんが、意見・感想、その他について5点お話しさせていただきたいと思います。

1点目、事務局から話のあった14,000人の人口減少について、私はこの数字の実感がわかりませんでした。少子高齢化は進みますが、人口減について何の裏付けで出しているのか気になりました。10、20、30、40年後、4つに区切った数値、地域ごとの数値といった資料が欲しいと思っています。

2点目、他自治体の複合化施設を見学しようという話がありましたが、見学するうえでは、複合化による失敗についてもきちんと把握する必要があると思います。

3点目、今回の資料について、とても素敵な内容に見えますが、若い人がこの先東大和市に定住し

たいと思える資料づくりを進めてほしいと思っています。

4点目、消滅する施設、存続する施設が落とし込まれてた地図資料があるとわかりやすいと思います。

5点目、市の北部で育ったものとして、過疎化が進む点について、良いか悪いかは別として、少し寂しく感じるということを感じてお話をさせていただきます。

○座長

ご指摘・ご提案のあった資料については、できる範囲でぜひ2回目に用意いただけると嬉しいなと思います。まだご発言のない委員の皆様にご意見を賜りたいと思います。

○委員

「誰一人取り残さない全ての子どもの可能性を引き出す学びの保障」というのはすごく良いと私は思っていますが、学校が嫌いな子どももいらっしゃるのが現実にあると思います。学校は行きたくないけど、外でスポーツをやりたいなど思っている子どももいますが、学校の時間外にスポーツ施設に行くと補導されてしまう状況が現状としてあります。公園でのボールの使用が不可など制約のある中で、子どもが考えて遊べる場所についても今回の計画に盛り込んでいただけたら良いかと思います。

○座長

これも大事な論点をいただきましたので、この部分は今日の資料では表現できていない部分だと思いますし、一方ですごく大切なご指摘なので、2回目以降議論してもよいと思いました。

○委員

公共施設の再編・再配置ですから、例えば立地適正化計画や公園再整備計画等も関係してくると思いますので、他の計画の検討状況等も共有できると分かりやすいと思います。

○委員

公民館運営審議会の会議がありました。東大和市には公民館が5館あり、とてもありがたいという話がありました。今回集約することで公民館の数が減ることになりますが、集約することのメリット・デメリットも考えていきたいと思っています。

○座長

これは、学校にいけない子どもをどうするのかとも関係した話かなと思います。複合化することで複合化した施設にはあまり行きたくない、あの場所に行きたい、みたいな思いをどうやって捉えていくかということかなと思います。

○委員

七小・九小の統合に私も関わりました。今の計画が頓挫した経緯をお聞きしましたが、七小・九小の保護者、児童には共有されているのかな、というのが気になりました。

○田口教育部長

七小・九小建替えの際に、先ほど申し上げた検討会議で皆様方のご意見をいただいたわけですから

ども、既にその検討会議自体が解散している関係もございまして、検討会議に携わった方に関しましては直接的な報告はできておりませんが、七小・九小の学校を通して、保護者の方には、今回の素案の公表も含めて、再配置計画において検討していく旨、ご案内はさせていただきました。

○副座長

委員の皆様方からのご意見は非常に多様な視点からで、私も自身の見識が広がったという思いがしています。私からは4点ほどお伝えしたいと思います。

1点目、他の委員からもありましたが、ボリュームスタディについて、小学校や中学校にいろいろな施設を集約するにあたり、実際に入るかどうか実際のイメージに基づいた検討が必要だと思えます。広さについても、施設の稼働率に関わってきますので資料として次回以降共有していただけるとありがたいと思います。

2点目、再配置をステップとして示していただきましたが、統廃合や集約を行った後、跡地の活用方針についても方向性のようものを示していただけると良いのではないかと思います。

3点目、こちらも統廃合の視点ですが、目安となる時間軸を入れていただきたいと思えます。口頭でステップ2まで10年というお話でしたが、可能であればこの懇談会内だけでも構いませんので時間の見通しがあれば議論しやすいかと思えます。

4点目、共用化に当たり、ハード面だけでなくソフト面も重要になると思えます。学校に機能集約することで、セキュリティの強化や相互利用による相乗効果などもあり、他の自治体でも事例があると思えますが、セキュリティを強化しすぎると逆に面積が減らせなかったということもあると思えますので、参考にしていただければ良いと思えます。

○座長

今の意見は2回目以降に検討するものだけでなく、振り返りの段階で必要な点も提案いただいたと思えます。土地活用の方向性については、この時点で考えてもわからない部分もありますが、この懇談会で扱いたい議論ではあると思えます。また、時間軸やソフト面については今後議論していきたいと思えます。

他に意見がないようであればこの議題（1）は終了といたします。

次に、議題（2）その他について事務局から説明をお願いします。

○大野公共施設再編課長

今回の懇談会は4月を予定しておりますが、日程について早めに調整させていただきますのでよろしく願いいたします。

○座長

それでは本日の議題は以上となります。

本日の内容をまとめますと、バリアフリーやセキュリティ、活用の方向性など様々大切なご指摘をいただきました。2回目以降これを踏まえて各議論を深めていただければと思えますが、学校施設を中心とした公共施設の再配置によって「学び」と「集い」の魅力をアップをしていくという方向性については、課題はありますが、委員の皆さんからご賛同をいただけたものと思えます。次回以降、この共通理解の土台を踏まえて議論していきたいと思えます。

懇談会終了後、ご質問等ありましたら事務局までご連絡ください。

以上で本日の議題は全て終了しました。

これを持ちまして第1回東大和市公共施設再配置計画策定懇談会を閉会いたします。ありがとうございました。